

寅さん歩 その15

江戸・東京(23区)の百名山-6

平野 武宏



深田久弥提唱の「日本百名山」は山男や山ガールが入門書や目標としています。昔の友人もはまっていたが、山の上があまり好きでない寅次郎は興味を示さず、ウォーキングの世界に入りました。最近、NHKBS放映「グレートトラバース-2」で「日本百名山」を踏破後、「日本二百名山」を一筆書きで、交通機関を使わず、自分の足のみで踏破しているプロアドベンチャーレーサーの姿を知りました。

4年前に東京に移り住み、都内を歩き回っている寅次郎、図書館で「江戸・東京百名山に行く(手島宗太郎著)」を見つけ、アイデアをいただきました。国民の祝日「山の日」実施記念として全踏破に挑戦したい気持ちになりました。

著者手島氏の選んだ「百名山」は現存しない山や富士塚も含まれていますが、最高峰は新宿区44.6mの箱根山と知り、自分の足だけなどと言わずに、東京都シルバーパスも活用し、楽しみながら、踏破する新シリーズとします。位置関係が分かるように、数の多い23区順に紹介します。

今回は文京区の残り5山です。数字は踏破した数の累計です。最寄り駅は代表例で、都営線はシルバーパス使用可です。

[文京区-2]

30. 椿山

関口2丁目、目白台1丁目

最寄駅 都電荒川線 早稲田駅

東京メトロ 有楽町線 江戸川橋駅

椿山荘、新江戸川公園一帯の山で、下は桜の名所で有名な神田川です。南北朝の時代から椿の自生する景勝地で、長州萩の軍人・政治家 山縣有朋が現在の「ホテル椿山荘東京」にあたる土地を購入し、庭園、邸宅を作り「椿山荘」(写真下左右)と命名しました。



写真下左は椿山荘庭から見た「椿山」で写真下右の「新江戸川公園」の山まで繋がっています。「新江戸川公園」は江戸時代中期の旗本の邸宅、徳川御三卿の清水家の下屋敷、一橋家の下屋敷に転じ、幕末に肥後細川家の下屋敷、抱屋敷となりました。戦後は、数度にわたり所有者が変わり、昭和 36 年(1961 年)都立公園として開園、昭和 50 年(1975 年)文京区に移管されました。



寅さん歩 その 12 東京の紅葉・黄葉およびその 5 東京の桜 2013 およびその 5-東京の桜 2014-1 を参照ください。

31. 本郷丸山

本郷 5 丁目 15、16

最寄駅 都営大江戸線 本郷三丁目駅

「菊坂」を下ると、「本妙寺坂」と交差します。
 (写真右は本妙寺坂から菊坂交差点を見る)
 本妙寺坂を右折して上った本妙寺坂上一帯が「本郷丸山」とのこと。



「本妙寺」とは「明暦の大火」の火元とされたお寺です。
 明治34年（1901年）豊島区巢鴨に移っていますが、当時は
 この台地にあったとの説明板がありました。
 また、この辺りは文人が多く居住していて「近代文学発祥の
 地」とのレリーフ（写真下右）もありました。



写真上は本郷5丁目15、16辺りで山の
 面影は残っていません。



32. 藤代峠（富士見山）

駒込6丁目 六義園内 最寄駅 山手線 駒込駅

「六義園」は5代将軍綱吉の小姓から川越藩藩主まで上りつめた「柳沢吉保」が元禄15年（1702年）屋敷内に築園した和歌の趣味を基調とする「回遊式築山泉水」の大名庭園です。
 明治に入り岩崎彌太郎の別邸となり、昭和13年（1938年）東京市に寄付され、昭和28年（1953年）国の特別名勝になった文化財庭園です。「藤代峠」は園内で一番高い築山で、標高は約35m、山頂は「富士見山」と呼ばれますが、紀州にある同名の藤代峠から名付けられました。



写真上左の中央のこんもりとした木の下が藤代峠山頂(白っぽい点は山頂にいる人です)、写真上右は正面上り口です。



山頂(写真上左)には昔は木のベンチはなく、左端にある石に殿様が腰かけて眺めた風景(写真上右)です。(ビルはなかったですが..)

寅さん歩 その5-1 東京の桜2013 およびその12-1 東京の紅葉・黄葉を参照ください。「しだれ桜」と「紅葉」は是非、来園して生を見てください。

33. 駒込富士

駒込5丁目7 富士神社 最寄駅 山手線 駒込駅

駿河の富士浅間を祀る「富士神社」は本郷の赤門(東京大学)近くにあったが、加賀藩主 前田侯の上屋敷を造るため、現在地にあった古墳の上に移したそうです。かなり急な上り石段と山頂にある浅間神社(写真下右)を「駒込富士」と呼びました。高さは約7m。



寅さん歩 その9 東京の富士塚めぐり-2 を参照ください。

34. 白山富士

白山5丁目31 白山神社内 最寄駅 都営三田線 白山駅

「白山神社」は平安期に加賀国一宮白山神社から移されたのが始まりで、紫陽花の名所です。「白山富士」(写真下右)は神社裏にあります。通常は門が閉じられていますが、「紫陽花祭」の時期には山頂へ上ることが出来ます。高さは約4m。

寅さん歩 その10 健康ご利益めぐり-11 文京区-2 および
その11 江戸・東京の祭-25 (花の祭-7) を参照ください。



【こぼれ話】江戸三大大火

「火事と喧嘩は江戸の華」と言われ、狭い敷地に人口が密集していた江戸は火事が多く、ほとんど毎日発生していたそうです。

その中でも歴史に残る大火と呼ばれる規模は90回を超えるそうです。大火が起こる度に江戸の町は改造され、防火対策がなされました。

「江戸三大大火」を学びました。



【明暦の大火】

明暦3年(1657年)1月18日「振袖火事」と呼ばれる江戸期最大の火事。本郷の「本妙寺」の境内で同じ振袖を着た娘が3人も続けて病死したので、その振袖を焼こうとしたところ、火のついた振袖が舞い上がり、寺に燃え移ったと言われます。

火は2日間燃え続け、江戸城天守閣をはじめ市中の6割を焼き、死者は11万人。

当初、寅次郎は「振袖火事」なので八百屋お七の「お七火事」と勘違いしていましたが、「お七火事」は天和2年(1682年)の「天和の大火」でした。

火元の本妙寺はお咎めもなく、元の地に再建され、その後、巢鴨に移っています。これは謎だとして「本妙寺火元引き受け説」や「幕府の江戸都市改造を実施するための放火説」などが陰でささやかれています。

[明和の大火]

明和9年(1772年)2月29日目黒行人坂の「大円寺」から出火、折からの強風にあおられ、麻布から神田、千住まで焼きつくし、「行人坂火事」とも呼ばれました。又、年号からしゃれて「明和くの火事」と呼ばれました。死者1万4千人、行方不明4千人。寺の坊主の放火だそうで、犯人は火あぶりの刑、火元の大円寺は76年間も寺の再建が許されなかったとのこと。

[文化の大火]

文化3年(1806年)丙寅の年で「丙寅の火事」と呼ばれる。芝 車町(今の高輪2丁目)材木屋付近から出火したので「車町火事・牛町火事」とも呼ばれました。京橋、日本橋から神田、浅草まで江戸の下町530町を焼きつくし、死者1,200人。

次回は江戸・東京の百名山-7です。

平野 寅次郎 拝